

相原星哉 (AIHARA Seiya)

研究員

- 1994 神奈川県川崎市 生まれ
- 2017 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科 卒業
- 2019 東京農工大学大学院 農学府 農業環境工学専攻 修了
- 2019 農研機構 農村工学研究部門
地域資源工学研究領域 水文水資源ユニット



研究者の横顔

〈現代型江戸っ子〉

東京・築地に店を構えたハンコ屋の2代目の息子として生まれ、小学校から二十歳まで築地で育ちました。東京に3代いけば江戸っ子といわれますから、生まれこそ神奈川ですが、東京で育った私は、れっきとした江戸っ子といえるでしょう。江戸っ子といえば、「てやんでい言葉」という印象ですが、今の江戸っ子にそんな風に話す人はめったにいません。現代型江戸っ子は、上品でおしとやかなものです。

〈大学時代は生態学を学ぶ〉

ビルに囲まれた都心で育った私ですが、小さいころから生き物が好きで、都会のわずかな緑地をながめては、生き物を愛でたり、休日には郊外に出かけて魚釣りをしていました。大学では、生物の保全について学びたいという思いから農学部に進学し、生態学のコースを履修していました。大学時代で一番好きだった講義は、演習林に出かけて、ひたすら木の名前を覚える「樹木学実習」という講義でした。

〈農業土木との出会い、そして農工研へ〉

数ある生物の中でも、淡水魚が好きだった私は、魚の研究ができる研究室に入りました。しかし、そこで少しの不都合が生じました。その研究室が、農業土木コースの研究室だったのです。生態学の講義しか取って来なかった私は、何もわからないまま、農業土木の世界に飛び込むことになりました。ゼロから勉強し直したので大変でしたが、結果的に視野が広がったように思っています。

修士課程までは、農業水路に生息する魚類と水生植物の生息環境について研究し、魚の研究を続けられる可能性が少しでもあればと思って、農工研に就職しました。水文水資源ユニットに配属になり、一から水文学を勉強しているところですが、次第に水文学も面白いものだと思い始めています。特に、流域の水文特性を調べることは、魚の生態を調べることに似ている気がして、楽しく思っています。

〈生き物好きのサガ〉

研究テーマにしていた魚類や水草、釣りとは並ぶ趣味のバードウォッチングで鳥類、大学の実習で覚えた樹木や植物と、多様な生き物に親しんできた私の意識の一部は、常に生き物の情報を仕入れることに使われています。道を歩けば、足元に生えている雑草の同定を試みますし、川や水路があれば、まず覗き込みます。デスクワークをしながらも、鳥の声は聞き逃しません。生き物の営みを感じ取ることは、日々の暮らしに癒しを与えてくれます。皆さんも生き物を勉強して、こちらの世界に来てみてはいかがでしょうか。



ちょっとした特技：投網
丸く広げるのは案外難しいのです